

聴覚障がい者（ろうあ者）



イベントについて

- 手話通訳や要約筆記がないと、そもそも参加したいと思うろうあ者は少ないと思う。
字幕や要約筆記がないと、何を話しているのかわからないから…。
- チラシやポスターはわかりやすい言葉で、聞こえない人の目に止まるような掲示方法や貼り方をしてほしい。
- 広報は文字だけだと興味がわからないが、絵や写真があると引き付けられる。
歩いていても、つい立ち止まって見てしまうような画像のインパクトがあるといい。
- 館内放送やアナウンスは聞くことができない。
もし放送前提のイベントがあった場合、耳の聞こえる人と同じように感じ取ることは難しい。
- イベントに参加するのが無理だったとしても、今回は無理だけど次考えてみます、という前向きなコミュニケーションがあればOK。

日常のコト

- 買い物する時の困りごと。注文する時にひとつひとつ指差ししないと伝わらないのが困る。
なにか商品を探したいときに、店員さんと呼ぶことも難しい。
- 駐車場での困りごと。駐車場を出るときに、音声で話さないといけない時、コミュニケーションに時間がかかる。20分ぐらい待たされることも…。
障がい者手帳をカメラに見せても係員から理解が得られないことがある。
- 料理する時の困りごと。火が通ったタイミングが分からない。よく火を通しすぎる。
一見安全そうなIHではなくガスを使用するのは、IHは表面がつるつるで場所がわかりにくいから。
- 収納するモノの場所をしっかり決めている。違う所に仕舞ったら場所がわからなくなってしまうから。
- 筆談で対応してくれる人が増えてきている。
ろう者に理解のない人は昔に比べると減ってきているように感じている。
- 別れ際に「ありがとう」とか簡単なものだけでも、手話で話してくれるととても嬉しい！
- 新しい言葉を理解するのは難しい。新しい言葉を知り、意味が正しくつながるのには時間がかかる。
例：最初に「コロナ」という言葉の意味を理解するには、「インフルエンザとかSARSみたいなのがあったやんか。そのすごいやつ。」のように、過去の知っている経験や言葉から徐々に理解していくため、耳の聞こえる人に比べると、言葉の理解は遅め。
- 実は、国内の手話にも方言がある。
- 実は、国際手話というものがある。
- 実は、海外のろう者と話すときに、一番早いのは結局身振り手振り。(案外それで伝わる)